

# 精神科領域専門医研修 プログラム

- 専門研修プログラム名：大分大学医学部附属病院連携施設群  
精神科専門医研修プログラム
- プログラム担当者氏名：石井 啓義  
住 所：〒879-5593 大分県由布市挾間町医大ケ丘 1 丁目 1 番地  
電話番号：097-586-5823  
F A X：097-549-3583  
E-mail：nobuy@oita-u.ac.jp
- 専攻医の募集人数：( 5 ) 人
- 応募方法：  
申請書、履歴書、医師免許証（コピー）、臨床研修終了登録証（コピー）または終了見込証明書  
を下記宛先に送付の上、面接申し込みを行う。  
宛先：〒879-5593 大分県由布市挾間町医大ケ丘 1 丁目 1 番地  
精神科医局 109 号室 医局長 石井啓義  
TEL：097-586-5823  
FAX：097-549-3583  
担当者：石井啓義（医局長）
- 採用判定方法：科長・医局長が履歴書記載内容と面接結果に基づき厳正な審査を行い、  
採用の適否を判断する。

## I 専門研修の理念と使命

### 1. 専門研修プログラムの理念（全プログラム共通項目）

精神科領域専門医制度は、精神医学および精神科医療の進歩に応じて、精神科医の態度・技能・知識を高め、すぐれた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑽を図ることにより精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献し、もって国民の信頼にこたえることを理念とする。

## 2. 使命（全プログラム共通項目）

患者の人権を尊重し、精神・身体・社会・倫理の各面を総合的に考慮して診断・治療する態度を涵養し、近接領域の診療科や医療スタッフと協力して、国民に良質で安全で安心できる精神医療を提供することを使命とする。

## 3. 専門研修プログラムの特徴

大分大学精神科は、前身の大分医科大学精神科として開設以来、30数年にわたり大分県の精神科医療の発展に尽力してきた。出身者は、県内はもとより多くの現場で精神科臨床や精神保健福祉、そして研究分野にて活躍している。

基幹病院の大分大学精神科は、閉鎖病棟、開放病棟の合計30床ながら、大学病院の特性から難治例、身体合併症例などにも対応している。高度救命救急センターもあるため自殺企図などにより重篤な身体損傷の生じた患者はこのセンターで蘇生および身体管理後に、精神科病棟で適切な精神科治療を受ける。精神科病棟に空床がない場合には、連携病院に入院加療をお願いしている。

大分大学精神科では、専攻医は入院患者の担当医となり、指導医が主治医として対応する。必ず上級医が主治医になることで、薬物療法、精神療法、家族とのかかわり、地域とのかかわりなど直接指導を受けながら学ぶ。また、看護師、心理士、精神保健福祉士、作業療法士等、全スタッフを交えた毎日のカンファレンスを設けて、それぞれの症例について時々刻々と変わる精神状態を検討し、適切な治療・対応を工夫している。このため、専攻医が孤立して治療にあたることがないよう十分にサポートしながらチーム医療ができています。専攻医はさまざまな入院患者を受け持つため、幅広く精神疾患を経験し、さらには難治例に関しての緻密な薬物療法、修正型無けいれん性電気療法、クロザピン治療などを修練することができる。

連携病院としては、大分県立病院精神科や別府医療センター精神科、産業医科大学精神科などの公的な医療機関、大分市の衛藤病院、大分丘の上病院、佐藤病院、帆秋病院、別府市の鶴見台病院、向井病院、山本病院、宇佐市の宇佐病院、中津市の大貞病院があり、大分県内に広くネットワークが出来る。また、大分県こころとからだの相談支援センターとも連携し、精神科治療にとどまらず、相談支援業務や一般の方への啓発活動、一次予防から三次予防までの活動に従事することで精神科の社会的な側面からの研鑽もつめる。

## II. 専門研修施設群と研修プログラム

### 1. プログラム全体の指導医数・症例数

■ プログラム全体の指導医数：40

■ 昨年一年間のプログラム施設全体の症例数

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	1,574	622
F1	364	227
F2	3,384	2,118
F3	3,724	850
F4 F50	2,075	284
F4 F7 F8 F9 F50	1,845	243
F6	112	38
その他	505	155

## 2. 連携施設名と各施設の特徴

### A 研修基幹施設

#### ①施設名：大分大学医学部附属病院

- ・施設形態：大学病院
- ・院長名：三股 浩光
- ・プログラム統括責任者氏名：寺尾 岳
- ・指導責任者氏名：寺尾 岳
- ・指導医人数：（ 4 ）人
- ・精神科病床数：（ 30 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	79	15
F1	18	2
F2	47	36
F3	136	60

F4 F50	73	11
F4 F7 F8 F9 F50	85	13
F6	6	0
その他	51	4

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は618床を有する大学病院であり、精神科病床30床で難治性の症例の紹介を各地域から引き受けている。主に難治例の統合失調症（F2）、気分障害（F3）、神経症性障害（F4）、認知症（F0）を中心に、思春期症例、身体合併症症例、リエゾン・コンサルテーションなど精神科臨床を網羅した経験ができる。さらには緩和ケアや作業療法、集団精神療法などにも参加し研鑽がつめる。

## B 研修連携施設

### ②施設名：大分県立病院

- ・施設形態：公的総合病院
- ・院長名：井上 敏郎
- ・指導責任者氏名：塩月 一平
- ・指導医人数：（ 3 ）人
- ・精神科病床数：（ 36 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	47	22
F1	15	8
F2	37	25
F3	68	29
F4 F50	100	16
F4 F7 F8 F9 F50	14	5
F6	2	0
その他	0	0

**【治療場面】**

細目	年間症例数
救急	99
行動制限	54
地域医療	0
合併症・リエゾン	171

**【治療形態】**

細目	年間症例数
任意入院	32
医療保護入院	64
措置入院	11
応急入院	0
外来	5208

## ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、一般病床566床、精神科病床36床を有する県の中核的総合病院である。令和2年10月に開設した精神医療センターがあり、精神科救急症例や身体合併症症例を経験することができる。またリエゾン・コンサルテーションチームがあり、多彩な疾患を経験することができる。また、緩和ケアチームに参加し、がん医療における精神症状の治療および患者と家族の心理的支援について学び、経験を積むことができる。

**③施設名：独立行政法人国立病院機構別府医療センター**

- ・施設形態：国立病院機構
- ・院長名：矢野 篤次郎
- ・指導責任者氏名：児玉 健介
- ・指導医人数：（ 1 ）人
- ・精神科病床数：（ 40 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	51	19
F1	20	12
F2	204	50
F3	270	50
F4 F50	232 (F4:226 F50:6)	19(F4:18 F50:1)
F4 F7 F8 F9 F50	277 (F4:226 F7 : 9 F8:6 F9:30 F50 : 6)	19 (F7、8、9 : 0)
F6	4	0
その他	1	1

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は 500 床を有する総合病院であり、うち 40 床が精神科病棟でデイケア棟も併設している。2015 年 4 月に建て替えたばかりの非常に明るく広々とした環境で地域医療の中核として多くの医療機関と連携しながら急性期から社会復帰、地域支援に至るまで全ての精神疾患について幅広い治療を行っている。また総合病院内の精神科として、リエゾン・コンサルテーションや緩和ケアにも積極的に取り組んでいる。精神保健指定医や専門医取得に必要な症例も不足なく当院で経験することができ、限られた期間でより多くの臨床経験を積みたいというニーズにも充分に応える事ができる施設である。

④施設名：大分県こころとからだの相談支援センター

- ・施設形態：公的無床診療所
- ・院長名：土山 幸之助
- ・指導責任者氏名：土山 幸之助
- ・指導医人数：（ 1 ）人
- ・精神科病床数：（ 0 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	0	0
F1	0	0
F2	15	0
F3	4	0
F4 F50	0	0
F4 F7 F8 F9 F50	0	0
F6	1	0
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当センターは、精神科地域医療の推進、保健所や市町村等に対する技術援助、一般の方を対象とした精神面の不調や精神疾患への普及啓発活動を通して、精神保健医療福祉への理解を深め、併せてネットワークの重要性やその実際を学ぶことを特徴としている。また、精神疾患の発症予防・治療・再発と様々な時点での介入方法やその重要性を学ぶことができ、県下では数少ない成人の発達障がい者に対するデイケアを実施している。デイケアにおいては、就労支援に積極的に取り組んでおり、従来の統合失調症を中心としたプログラムとは違った手法を習得することが可能である。

⑤施設名：医療法人社団親和会 衛藤病院

- ・施設形態：精神科病院
- ・院長名：衛藤 龍
- ・指導責任者氏名： 衛藤 龍
- ・指導医人数：（ 3 ）人
- ・精神科病床数：（ 232 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	110	100

F1	1	13
F2	48	215
F3	74	58
F4 F50	31	4
F4 F7 F8 F9 F50	16	4
F6	2	0
その他	66	59

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は 232 床の単科の精神科病院であり、関連施設に内科病院、老健施設、特別養護老人ホームを併設している。主に、統合失調症（F2）、気分障害（F3）、認知症（F0）を中心の診療、身体合併症の受け入れも行っている。また精神科訪問看護や精神科グループホーム 30 床を有しており、長期入院患者の地域移行を積極的に取り組んでいる。そのため、従来の精神科医療以外の地域医療、チーム医療にも参加できる。

⑥施設名：大分丘の上病院

- ・施設形態：精神科病院
- ・院長名：帆秋 善生
- ・指導責任者氏名：帆秋 善生
- ・指導医人数：（ 1 ）人
- ・精神科病床数：（ 140 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	127	50
F1	86	74
F2	691	191
F3	860	226
F4 F50	468	105



F4 F7 F8 F9 F50	552	133
F6	68	19
その他	7	2

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、思春期から老年期医療まで幅広い精神科疾患を対象として、60床の精神科急性期治療病棟、65床の重度かつ慢性病棟、15床の高齢認知症病棟(現在休床中)を有している。治療は医師、看護師だけでなく、公認心理士、作業療法士、栄養士、精神保健福祉士、薬剤師、介護福祉士を配置したチーム医療を行っている。薬物療法は臨床薬理学に基づいた処方と漢方治療を習得できる。また、摂食障害やアルコール症には自助的集団精神療法を利用した治療プログラムや、うつ病には心理教育、集団認知行動療法、リワークを、統合失調症には心理教育、家族会を、認知症には家族会など集団療法を行っている。また近隣の総合病院へ定期的に往診し他科や緩和ケア病棟へのリエゾン精神医療も行っている。

⑦施設名： 佐藤病院

- ・施設形態： 精神科病院
- ・院長名： 宇都宮 和則
- ・指導責任者氏名： 宇都宮 和則
- ・指導医人数：( 5 ) 人
- ・精神科病床数：( 366 ) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	39	4
F1	9	9
F2	262	304
F3	271	29
F4 F50	56	9
F4 F7 F8 F9 F50	15	18
F6	0	5

その他	37	41
-----	----	----

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は 366 床の精神科病院であり、主に統合失調症（F2）、認知症（F0）、気分障害（F3）を中心に、思春期症例、身体合併症症例など精神科臨床を網羅した経験ができる。

#### ⑧施設名：医療法人哲世会 鶴見台病院

- ・施設形態：精神科病院
- ・院長名：山本 正史
- ・指導責任者氏名：山本 正史
- ・指導医人数：（ 3 ）人
- ・精神科病床数：（ 160 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	15	1
F1	20	12
F2	390	130
F3	513	50
F4 F50	150	10
F4 F7 F8 F9 F50	183	14
F6	2	1
その他	0	0

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は通常の精神科医療だけでなく、医療観察法に基づく鑑定入院施設と指定通院医療機関になっており県内では数少ない医療観察法によるチーム医療によるきめ細かい入院加療、外来通院やグループホーム入所でのサポートを経験出来ます。院外からの各種スタッフを入れての医療観察法対象者の定期的な会議への参加を通して司法精神医学も学ぶと共に、地域内の他の施設のスタッフとも連携し地域への社会復帰プログラムも学べます。また、思春期から高齢者まで幅の広い新規

患者の受診に加え、近隣の総合病院からのリエゾン・コンサルテーション依頼があるためいろいろな症例の初期対応などの経験も可能です。アルコール依存症プログラムもありプログラムの経験も可能です。現在日本精神神経学会の専攻医の指導は常勤の三人の指導医で行っているが、他に日本老年精神医学会専門医制度の認定施設でもあり、そちらの指導医による専門医指導も併せて行っている。

⑨施設名：医療法人至誠会 帆秋病院

- ・施設形態：精神科病院
- ・院長名：帆秋 伸彦
- ・指導責任者氏名：帆秋 伸彦
- ・指導医人数：( 3 ) 人
- ・精神科病床数：( 446 ) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	109	100
F1	46	39
F2	276	370
F3	215	60
F4 F50	169	8
F4 F7 F8 F9 F50	9	6
F6	9	1
その他	42	33

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は 446 床の精神科病院であり、平成 27 年 4 月に移転・新築し、体育館、グループホーム、保育園を併設している。また、100 床の介護老人保健施設を併設している。移転の際に、電子カルテを導入し、3 テスラの MRI、16 列マルチヘリカル CT、脳波計、高照度光療法室などを完備している。

常勤医は 12 名おり、そのうち精神保健指定医は 4 名、内科医が 2 名いる。また、精神保健判定医、日本精神神経学会 専門医・指導医、日本老年精神医学会認定専門医・指導医、日本精神科病院協会認定 指導医、日本医師会認定

産業医、日本医師会認定 健康スポーツ医、ICLS プロバイダー、認知症かかりつけ医、認知症サポート医、発達障害かかりつけ医、総合内科専門医、日本内科学会認定内科医、日本リウマチ学会専門医・指導医、インфекションコントロールドクターが在籍しており、研修指導体制を整えている。また、職員研修として、院内研修会を頻回に開催しており、また外部研修会にも積極的に参加し、各職種の資質向上を図っている。医療連携として、大分大学医学部附属病院、大分県立病院、大分赤十字病院、アルメイダ病院、大分中村病院等と相互医療の協力体制を整えている。

当院の特徴として、統合失調症、うつ病、躁うつ病、神経症性障害、認知症、アルコール依存症などの診療に幅広く力を入れている。統合失調症に関しては、持効性注射剤（LAI）の使用頻度が高く、難治性の統合失調症にクロザピンを処方している。また発達障害の中でも ADHD に関して、メチルフェニデート徐放製剤も処方できる。アルコール依存症に関しては、大分県のアルコール依存症専門医療機関として認定され、久里浜式認知行動療法や集団精神療法を行っている（重度アルコール依存症管理加算）。また、内科医と連携し身体合併症治療も行っている（身体合併症管理加算）。措置入院や応急入院の受け入れも積極的に行っている。毎朝、多職種によるミーティングやカンファレンスにて症例検討を行っている。平成 29 年 12 月に就労継続支援 B 型サニーファーム、相談支援事業所チャレンジを開設し、社会復帰の支援にも取り組んでいる。

#### ⑩施設名：医療法人慈愛会 向井病院

- ・施設形態：精神科病院
- ・院長名：向井 正樹
- ・指導責任者氏名：向井 正樹
- ・指導医人数：（ 3 ）人
- ・精神科病床数：（ 188 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	599	179
F1	30	5
F2	374	67

F3	369	49
F4 F50	116	0
F4 F7 F8 F9 F50	173	1
F6	2	0
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は188床の中規模精神科病院であるが、常勤医7名（うち指定医6名）で脳外科専門医・整形外科専門医の資格を持つ医師も常駐し、診療体制の充実を図っている。平均在院日数も120.7日と、積極的な退院支援を行っている。統合失調症、気分障害、神経症性障害、認知症症例に加えて、児童思春期症例も外来・入院を問わず経験可能である。大分県認知症疾患医療センターに指定されていることから、認知症症例は多く、BPSD・身体疾患の治療や地域連携についても併せて学ぶことが出来る。

⑪施設名：山本病院

- ・施設形態：精神科病院
- ・院長名：山本 隆正
- ・指導責任者氏名：山本 隆正
- ・指導医人数：（ 4 ）人
- ・精神科病床数：（ 234 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	36	10
F1	77	19
F2	707	273
F3	486	63
F4 F50	336	29
F4 F7 F8 F9 F50	154	22

F6	6	3
その他	146	4

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

統合失調症やうつ病、双極性障害などの精神病性障害をはじめ、神経症圏やアルコール関連疾患、認知症疾患など多彩な疾患を扱っています。近年、児童・思春期症例の外来、入院治療も増えています。58床の精神科急性期治療病棟を中心とした入院医療では、個別看護を重視したチーム医療を行っています。また、定員150名のデイナイトケアでの地域包括ケアが特色で、精神科の入院から地域医療まで幅広く研修することができます。就労、復職、修学支援などにも力を入れています。地域の障害者施設の嘱託医師や行政への医師派遣なども多く、地域の精神保健や福祉の連携に努めています。

⑫施設名：医療法人 起愛会 宇佐病院

- ・施設形態：精神科病院
- ・院長名：西口昭弘
- ・指導責任者氏名：西口昭弘
- ・指導医人数：（ 2 ）人
- ・精神科病床数：（ 248 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	42	39
F1	11	13
F2	227	219
F3	177	32
F4 F50	117	8
F4 F7 F8 F9 F50	276	7
F6	0	1
その他	145	11

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

統合失調症の患者を主として診ているが、感情障害等の症例も扱い地域の近隣施設とも連携を取り地域医療への貢献を行っている。

また、鑑定依頼も多く司法精神医学を学ぶ環境が整っている。

⑬施設名：医療法人 向心会 大貞病院

- ・施設形態：単科精神科病院
- ・院長名：向笠 浩貴
- ・指導責任者氏名：向笠 浩貴
- ・指導医人数：( 2 ) 人
- ・精神科病床数：( 140 ) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患別入院数・外来数疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	8	22
F1	2	3
F2	15	157
F3	14	22
F4 F50	15	3
F4 F7 F8 F9 F50	25	10
F6	3	1
その他	10	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は 140 床の単科精神科病院であり、通院医療圏は東は大分市、西は行橋市、南は日田市や玖珠町におよび、市内には 3 つの精神科クリニックがあるにもかかわらず比較的多くの患者(1 日平均 56.3 人)が通院している。また一方で、人口 8 万 6 千に対して唯一 140 床の精神科病院として入院医療を一手に担っており、辺境都市の地域医療においてまんべんなく疾患を経験することができる。

外来通院患者が多く入院患者にはまだ高齢者が少ないことから社会復帰を目指す方向にあり、開放療養病棟では社会復帰リハビリテーションを行ない、外来では保健所・地域との連携充実のためにリハビリ部門(精神科デイケア、訪問看護、OT、地域生活支援室)を特化して別棟にリハビリセンターを設置している。

小規模病院であるため、全医師が全入院患者を把握でき上級医師に相談しやすい環境を作るべく院長は毎日回診を行ない、看護師はもちろん OTR や PSW 時には薬剤師・栄養士も同行してチーム医療を実践している。

⑭・施設名：産業医科大学病院

- ・施設形態：私立総合病院
- ・院長名：田中 文啓
- ・プログラム統括責任者氏名：吉村 玲児
- ・指導責任者氏名：吉村 玲児
- ・指導医人数：( 5 ) 人
- ・精神科病床数：( 40 ) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	312	61
F1	29	18
F2	91	81
F3	267	122
F4 F50	212	62
F4 F7 F8 F9 F50	66	9
F6	7	7
その他	0	0

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

産業医科大学病院は 678 床で 22 の診療科を有する大学病院で、地域の中核病院であることはもちろん、勤労者の健康管理、職業性疾病、作業関連疾患などの産業医学関連の研究と診療を行い、地域医療に加え、産業医学分野への貢献は本施設の使命でもある。当科ではメンタルヘルスの取り組みや職域での精神疾患領域への研究と診療を積極的に行っている。40 床の閉鎖病棟を有し、年間 1000 名以上の新患患者が来院しており、統合失調症（F2）、気分障害（F3）、神経症性障害（F4）をはじめとし、思春期症例、認知症、リエゾン・コンサルテーション精神医学症例などを指導医の丁寧な指導のもと幅広く経験することができる。入院症例は全てカンファレンスと教授・上級医による回診にて、精神療法から薬物療法まで最新の知見も踏まえながら診断・治療のディスカッションと指導が行われる。



専攻医が希望する場合には産業医学講座の受講や過量服薬や自殺企図の初期対応を学ぶことができる救急科での研修、緩和ケア医療における精神科医の役割を実践的に学ぶことができる緩和ケアセンターでの研修を選択することも可能である。学会発表や論文作成に関しても積極的に指導を行っている。

### 3. 研修プログラム

#### 1) 年次到達目標

専攻医は精神科領域専門医制度の研修手帳に従って専門知識を習得する。研修手帳にある研修ガイドライン（総論）にある1患者及び家族との面接、2疾患の概念と病態の理解、3診断と治療計画、4補助検査法、5薬物・身体療法、6精神療法、7心理社会的療法など、8. 精神科救急、9. リエゾン・コンサルテーション精神医学、10. 法と精神医学、11.災害精神医学、12. 医の倫理、13. 安全管理について学ぶ。各年次ごとの到達目標は以下の通りである。

#### 到達目標

1年目：基幹施設で、指導医と一緒に統合失調症、気分障害、認知症の患者等を受け持ち、面接の仕方、診断と治療計画、薬物療法及び精神療法の基本を学ぶ。また、入院時や退院時の精神保健福祉法に関わる諸手続き、書類の作成の方法などを指導医、精神保健指定医とともに学ぶ。面接の仕方や患者とのかかわり方、治療方針については毎日のカンファレンスや毎週の回診などでプレゼンテーションをして指導医や診療科長などから指導を直接受け、また他の医師の治療法などの工夫を聞き自己の治療や患者とのかかわりに取り入れていく。症例検討会を行い、地方会（九州精神神経学会、大分大学医学部附属病院精神科同門会など）や学会（日本精神神経学会など）で発表をする。脳波判読、心理検査、睡眠脳波検査、無けいれん性電気療法などの助手・見学を行うことで方法、評価法を学ぶ。さらには毎週行われる緩和ケアのカンファレンス・回診に参加することで関連診療科とのカンファレンス・連携を経験する。

2年目：基幹施設または連携施設で、指導医の指導を受けつつ、面接等を自立して行っていく。薬物療法や心理教育、家族教育なども指導医に相談後に自らが主になって行い、その技法を向上させていく。救急・身体合併症症例の現場で指導医の指導のもと治療や他科と連携を学んでいく。また、指導医の指導のもとリエゾンコンサルテーションも行っていく。神経症性障害、性格障害、薬物依存、思春期症例など幅広い疾患を担当することで多くの診断・治療を行えるようにする。内外の研究会や学会に参加、そして発表を行う。

3年目：指導医から自立して診療できるようにする。外来症例や入院症例も単独で担当し、主となって治療を行っていく。連携施設により思春期症例や認知症症例、地域精神医療などの特色ある分野でそれぞれの指導医・上級医の指導のもと治療などに参加する。研究会や学会に参加、そして発表を行う。

## 2) 研修カリキュラムについて

研修カリキュラムは、「専攻医研修マニュアル」（別紙）、「研修記録簿」（別紙）を参照。

## 3) 個別項目について

### ① 倫理性・社会性

基幹施設において倫理に関する研修会等があるのでそれに参加する。多業種とチームカンファレンスを行う事や、職場や学校など患者の生活する場の関係者と連携を取ることや、院内の上級医、他業種のスタッフと連携することで医師としての倫理性・社会性等を学んでいく。

### ② 学問的姿勢

研修期間を通して、症例について最新の情報を文献的に調査し、それを実際の治療に役立てられるようにする。また、その結果得られた知見に関しては、地方会等の発表や学内誌などへの投稿を行う。

基幹施設では文献の輪読・抄読会も行い、それに参加する。

### ③ コアコンピテンシーの習得

研修期間を通して、患者関係の構築、チーム医療、安全管理、倫理観の構築を到達目標として、医師としてのコアコンピテンシーの習得を目指す。方法としては基幹施設で行われる医療倫理、医療安全、感染制御のセミナーへの参加をする。

さらに精神科診断面接、精神療法、精神科薬物療法、リエゾン・コンサルテーションといったコンピテンシーは基幹施設で習得し、連携施設にてその習熟度を上げる。さらには修正型無けいれん性電気療法の施行、脳波判読などについては基幹施設で習得、精神科啓蒙、地域連携、デイケアなど社会復帰プログラムの理解習熟については連携施設にて行う。

### ④ 学術活動（学会発表、論文の執筆等）

基幹施設にてにおいて臨床研究、基礎研究に従事し、その成果を学会や論文として発表する。1年目は症例報告を目標として上級医からの指導のもと年度後半に例年行われる九州精神神経学会や大分大学医学部附属病院精神科集談会での発表を計画している。連携施設においても基幹施設との共同研究を行い、その

成果を学会や論文として発表する。

⑤ 自己学習

基幹施設・連携室ともに専攻医に各自のデスクが用意され、上級医に質問しやすい環境を保ちながらも、個別の自己学習として、成書や文献を読み、発表の準備や論文の執筆を各診療の合間などに行える環境を整える。また、指導医とともに輪読会を行う。

基幹施設は大学病院であり図書館の併設、また文献複写、取り寄せのシステムを有する。

4) ローテーションモデル

典型的には1～2年目に基幹病院である大分大学医学部附属病院精神科をローテートし、精神科医としての基礎を固める。その後、総合病院である大分県立病院や別府医療センター、産業医科大学精神科でローテートし、緩和ケア、身体合併症例、急性期治療についてさらに経験を積む。また、1年目に基幹病院でのローテートをしたのちに、児童思春期や老年期の症例を多く経験する精神科病院にて2, 3年目をローテートする。連携病院は13施設あり、様々な特徴を持っているため、1年目の基礎は基幹施設である大分大学医学部附属病院で学ぶとして、多彩なローテーションが可能である。ローテーションの例は別紙1に示す。

5) 研修の週間・年間計画

いずれの施設においても、就業時間が週40時間を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。

別紙2と別紙3を参照

4. プログラム管理体制について

・プログラム管理委員会

委員長 医師：寺尾 岳

医師：石井 啓義

医師：塩月 一平

医師：児玉 健介

医師：土山 幸之助

医師：衛藤 龍

医師：帆秋 善生

医師：宇都宮 和則

医師：山本 正史  
医師：帆秋 伸彦  
医師：向井 正樹  
医師：山本 隆正  
医師：西口 昭弘  
医師：向笠 浩貴  
医師：吉村 玲児  
精神保健福祉士：岩田 真千子  
看護師：富永 志津代

・プログラム統括責任者：寺尾 岳

・プログラム管理委員会の役割

専攻医および研修プログラム全般の管理と研修プログラムの継続的利用を行う。

・連携施設における委員会組織

各連携施設の指導責任者および実務担当の指導医によって構成される。

## 5. 評価について

### 1) 評価体制

大分大学医学部附属病院：寺尾岳、石井啓義、岩田真千子

大分県立病院：塩月一平

別府医療センター：児玉健介

大分県こころとからだの相談支援センター：土山幸之助

衛藤病院：衛藤龍

大分丘の上病院：帆秋善生

佐藤病院：宇都宮和則

鶴見台病院：山本正史

帆秋病院：帆秋伸彦

向井病院：向井正樹

山本病院：山本隆正

宇佐病院：西口昭弘

大貞病院：向笠浩貴

産業医科大学：吉村玲児

各施設の病棟師長や心理士、精神保健福祉士

## 2) 評価時期と評価方法

- ・3カ月ごとに、カリキュラムに基づいたプログラムの進行状況を専攻医と指導医が確認し、その後の研修方法を定め、研修プログラム管理委員会に提出する。この提出がされているかどうかの確認は基幹施設のプログラム管理委員が行い、不備がないか、遅れがないかを確認し、評価する。
- ・6カ月ごとに研修目標の達成度を、当該研修施設の指導責任者と専攻医がそれぞれ評価し、フィードバックする。上記に記した3カ月ごとの研修プログラム管理委員会へのプログラム進行状況・その後の研修方法の報告もする。また、他職種による評価も行う。
- ・1年後に1年間のプログラムの進行状況並びに研修目標の達成度を各施設の指導責任者が確認し、次年度の研修計画を作成する。またその結果を統括責任者に提出する。
- ・その際の専攻医の研修実績および評価には研修記録簿／システムを用いる。
- ・専攻医による指導医及び研修プログラムに対する評価は、6カ月ごと、指導責任者が専攻医の目標の達成度を評価する際に同時に行う。期間ごとに研修プログラムの密度や達成度の困難さ、研修スケジュール自体の欠点等を文書として提出する。

## 3) 研修時に則るマニュアルについて

「研修記録簿」は研修実績を記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受ける。総括的評価は精神科研修カリキュラムに則り、少なくとも年1回行う。大分大学医学部附属病院にて専攻医の研修履歴（研修施設、期間、担当した専門研修指導医）、研修実績、研修評価を保管する。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムに対する評価も保管する。

プログラム運用マニュアルは以下の専攻医研修マニュアルと指導医マニュアルを用いる。

—専攻医研修マニュアル（別紙）日本精神神経学会作成

—指導医マニュアル（別紙）日本精神神経学会作成

- ・専攻医研修実績記録

「研修記録簿」に研修実績を記録し、一定の経験を積むごとに専攻医自身が形成的評価を行い記録する。少なくとも年に1回は形成的評価により、指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的自己評価を行う事。研修を修了しようとする年度末には総括的評価により評価が行われる。

- ・指導医による指導とフィードバックの記録。

専攻医自身が自分の達成度評価を行い、指導医も形成的評価をおこない記録する。少なくとも年1回は指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的評価を行い評価者は「劣る」、「やや劣る」の評価をつけた項目については必

ず改善のためのフィードバックをおこない記録し、翌年度の研修に役立たせる。

## 6. 全体の管理運営体制

### 1) 専攻医の就業環境の整備（労務管理）

専攻医の労働安全管理は国立大学法人大分大学職員労働安全衛生管理規定（平成 26 年 4 月 1 日制定）に則って行われる。専攻医（職員）は、労働災害を防止するため必要な事項を遵守するほか、学長その他の関係者が実施する労働災害の防止に関する措置に従わなければならない。安全衛生管理委員会は（1）総括安全衛生管理者（2）各学部長（医学部長を除く。）（3）医学部附属病院長（4）産業医（5）事務局長によって構成される。安全衛生管理委員会は専攻医（職員）の労働安全を守り、危険又は健康障害を防止するための措置を講じる。

### 勤務条件

・医員及び医員（研修医）の日給額については、別表第 1 医員及び医員（研修医）の基準単価表に定める額とする。（下記）

医員及び医員（研修医）の基準単価表 職員名称

日給額 医員 12,810 円

・その他、時間外勤務、宿日直手当が支給される。

### 所定勤務時間

職員の所定勤務時間は、1 週間 38 時間 45 分で、1 日の所定勤務時間は、7 時間 45 分とし、始業及び終業の時刻並びに休憩時間は次のとおり。

始業時刻 8 時 30 分

終業時刻 17 時 15 分

休憩時間 12 時から 13 時まで

また、業務の都合上必要があると認める場合は、前述にかかわらず始業及び終業の時刻並びに休憩時間を変更することがある。

（1）法定休日 土曜日

（2）法定外休日

日曜日、「国民の祝日に関する法律」による休日及び年末年始の休日（12 月 29 日～1 月 3 日）には、特に勤務を命じられている場合を除き、勤務を要しない。

なお、この日に特に勤務を命じられた場合、休日を別の日に振り替えることができる。

（3）出勤簿

定時（定められた勤務時間の開始時）までに出勤したことを証するために、職員自らが各自の出勤簿に押印する。

なお、次の場合は、押印しない。

1. 休暇を承認され、定時からの勤務を免じられた場合

2. 出張期間
3. 学外研修を承認された期間

なお、連携施設についてはそれぞれの労働安全、勤務条件ポリシーに則るが、基本は基幹病院である大分大学医学部附属病院のポリシーに準ず。

## 2) 専攻医の心身の健康管理

定められた健康管理者、安全管理者が以下の事務を行い、専攻医の心身の健康管理を行う。

### (健康管理者)

健康管理者は、職員の健康管理に関する事務の主任者として、次の各号に掲げる事務を行う。

- (1) 職員の健康障害の防止に関すること。
- (2) 職員の健康の保持増進に関すること。
- (3) 職員の健康診断に関すること。
- (4) その他職員の健康管理に関し必要な事項

### (安全管理者)

安全管理者は、職員の安全管理に関する事務の主任者として、次の各号に掲げる事務を行う。

- (1) 職員の危険を防止するための措置に関すること。
- (2) 職員の安全保持のための指導及び教育に関すること。
- (3) 施設、設備等の検査及び整備に関すること。
- (4) 職員の安全管理に関する記録及び統計の作成並びにその整備に関すること。
- (5) その他職員の安全管理に関し必要な事務

職場のメンタルヘルスに関しては、労働安全衛生法及び本法人大分大学職員労働安全衛生管理規程に基づき、職員の健康障害の防止及び快適な職場環境の樹立のためメンタルヘルスの取扱いが定められており。管理監督者は、職員の通常勤務の健康状況の把握に極力努め、必要に応じて心身の不調者にメンタルヘルス相談委員会への相談を勧奨しなければならない。専攻医（職員）は、職場において常に心身の健康と安全及び衛生的に業務の遂行が行える環境を求めることができることを保障されるものであり、業務上において心身の不調やストレス障害を感じる場合は、相談委員会に健康支援の相談を申出ることができることとする。

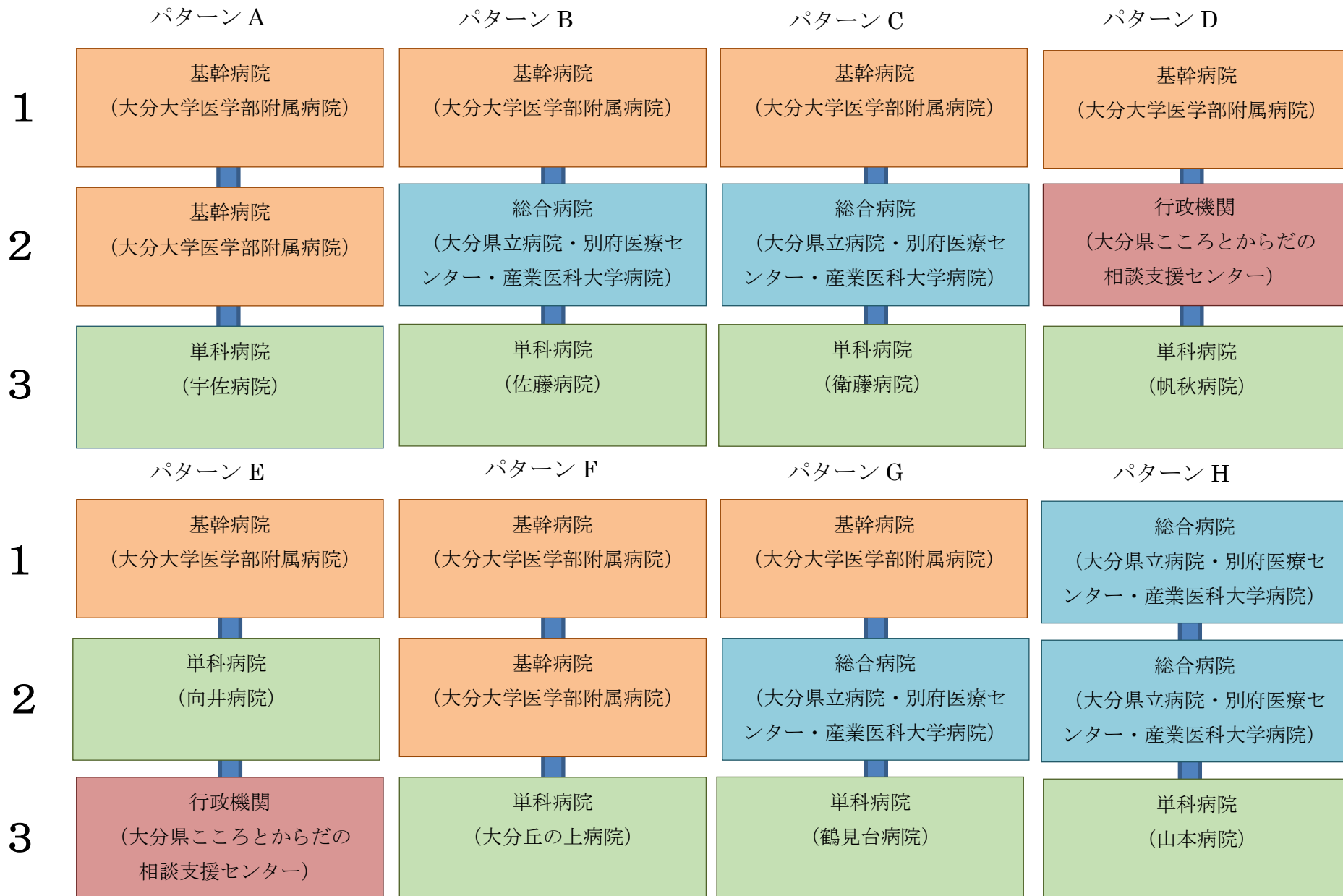
## 3) プログラムの改善・改良

基幹施設の統括責任者と連携施設の指導責任者による委員会で定期的にプログラム内容について討議し、継続的な改良を実施する。

## 4) FDの計画・実施

年1回、プログラム管理委員会が主導し各施設における研修状況を評価する。

## 別紙1 ローテーションの例



基幹施設（大学病院）、総合病院（県立病院、別府医療センター・産業医科大学病院）を軸に、専攻医のニーズに応じて多様な研修パターンを用意可能である。



別紙 2 : 週間計画 (基幹)

週間スケジュール

① 大分大学医学部附属病院

	月	火	水	木	金
8:30～9:00	朝カンファレンス	朝カンファレンス	朝カンファレンス	朝カンファレンス	朝カンファレンス
9:00～12:00	病棟業務	外来日直	外来作業療法	病棟業務	病棟業務
13:00～15:00	病棟業務	病棟業務	作業療法	病棟業務	外来日直
15:00～16:00	回診 外来カンファレンス		病棟業務	医局会	
16:00～17:15				抄読会	

別紙 2 : 週間計画 (連携)

② 大分県立病院

	月	火	水	木	金
8:15～9:15	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ
9:15～12:00	病棟業務	10:30～病棟回 診・カンファ	病棟業務	病棟業務	10:30～病棟回 診・カンファ
13:00～17:15	病棟業務	病棟業務	15:00～ 緩和ケアチーム回 診	15:00～ 認知症ケアチーム 回診	15:00～ リエゾンチーム 回診

別紙 2 : 週間計画 (連携)

③ 別府医療センター

	月	火	水	木	金
8:30~9:00	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ
9:00~10:30	外来／病棟業務	外来／病棟業務	外来／病棟業務	外来／病棟業務	外来／病棟業務
10:30~12:00	新患／リエゾン	新患／リエゾン	新患／リエゾン		新患／リエゾン
13:30~14:00	外来／病棟業務	外来／病棟業務	外来／病棟業務	病棟カンファ/症例 検討会	外来／病棟業務
14:00~15:30				病棟業務	
15:30~16:00	緩和ケア			デイケアカンファ	
16:00~16:30				病棟業務	
16:30~17:15				病棟業務	
※外来/病棟業務、新患/リエゾンは交代制					

別紙 2：週間計画（連携）

④ 大分県こころとからだの相談支援センター

	月	火	水	木	金	土
8:30~9:30	朝礼 デイケアミー ティング	朝礼	朝礼	朝礼 デイケアミーテ ィング	朝礼 デイケアミーテ ィング	
9:30~12:00	デイケア 精神保健相 談(当事者及 び家族に対 する面接)	精神保健相談 (当事者及び 家族に対する 面接)	デイケア家族 会 出張デイケア 保健所技術援 助	デイケア 精神保健相談 (当事者及び 家族に対する 面接)	デイケア 精神保健相談 (当事者及び 家族に対する 面接)	※年間10回程 度自殺対策専 門研修CRT隊 員研修DPAT 養成研修
13:00~15:30	デイケア 精神保健相 談(当事者及 び家族に対 する面接)	精神保健相談 (当事者及び 家族に対する 面接)	家族教室(ひき こもり、成人発 達障がい、ギャ ンブル依存等)	デイケア 精神保健相談 (当事者及び 家族に対する 面接)	デイケア 精神保健相談 (当事者及び 家族に対する 面接)	
15:30~17:15	症例検討会 デイケアカン ファレンス			デイケアカンフ ァレンス	デイケアカンフ ァレンス	

別紙2：週間計画（連携）

⑤ 衛藤病院

	月	火	水	木	金	土
午前	外来診察	外来診察 (デイケア)	外来診察	外来診察	外来診察	外来診察
午後	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務

※公休日については要相談

※院内研修～医局会における症例検討会、院内委員会による研修会

※院外研修～日本精神神経学会など主な精神科領域学会や講習会への参加あり

⑥ 大分丘の上病院

	月	火	水	木	金	土
8:30~12:30	朝礼 運営会議 外来診療	急性期治療病棟 新入院患者カンファレンス 外来診療	2病棟カンファレンス・申し送り 外来診療	休み	3病棟カンファレンス・申し送り 外来診療	外来
13:15~17:00	病棟業務	2病棟院長回診同行 病棟業務	3病棟院長回診同行 病棟業務	休み	1病棟カンファレンス 院長回診同行 各種集団療法	各種集団療法
17:00~17:30	医局会		勉強会			

別紙 2：週間計画（連携）

⑦ 佐藤病院

	月	火	水	木	金
9:00～12:00	病棟業務	外来(再診)	病棟業務	外来(予診+陪診)	デイケア
13:00～17:00	病棟業務	外来(再診) 脳波判読	病棟業務 症例検討	外来(陪診)	病棟業務

⑧ 鶴見台病院

	月	火	水	木	金	土
8:30~9:00	申し送り 症例報告	申し送り 症例報告	申し送り 症例報告	申し送り 症例報告	申し送り 症例報告	申し送り 症例報告
9:00~12:00	新患予診 病棟業務	新患予診 病棟業務	新患予診 病棟業務	新患予診 病棟業務	新患予診 病棟業務	新患予診 病棟業務
13:00~17:00	病棟回診 病棟業務	病棟業務 医局会 カンファ	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
			医療観察法対象者 ケア会議	アルコールプログラム	医療観察法対象者 ケア会議	医療観察法対象者 ケア会議
					アルコールプログラム	アルコールプログラム

別紙 2 : 週間計画 (連携)



⑨ 帆秋病院

	禾	勳	儂	乳	挺
漢義漢相 獵 漢義漢相	@ ā 熬爹爐熔再爹飲 輕P 戰擲熬爹爐熔再爹飲炖 唱θ 忒徒堆牽	@ ā 熬爹爐熔再爹飲 輕P 戰擲熬爹爐熔再爹飲炖 ㉔媪噴忘益> 熬爹爐熔再爹飲 唱θ 忒徒堆牽	@ ā 熬爹爐熔再爹飲 輕P 戰擲熬爹爐熔再爹飲炖 唱θ 忒徒堆牽	@ ā 熬爹爐熔再爹飲 輕P 戰擲熬爹爐熔再爹飲炖 唱θ 忒徒堆牽	@ ā 熬爹爐熔再爹飲 輕P 戰擲熬爹爐熔再爹飲炖 唱θ 忒徒堆牽
漢義漢相 獵 漢義漢相	唯侷佻▽	┆ 亢微啡	唯侷佻▽	唯侷佻▽	唯侷佻▽
漢義漢相 獵 漢義漢相	唯侷佻▽	┆ 亢微啡	唯侷佻▽	唯侷佻▽	唯侷佻▽

⑩ 向井病院

	午前	午後
(月)	外来	院長回診、病棟実習
(火)	外来	病棟実習
(水)	デイケア実習	
(木)	外来	院内勉強会、病棟実習
(金)	外来	訪問診療
(土)	病棟実習	

⑪ 山本病院

	月	火	水	木	金	土
8:30-9:00						
9:00-9:15	医局会	医局会	医局会	医局会	研究、研修	医局会
9:15-12:00	外来(新患) 病棟業務	外来(再来)	外来(再来)	外来(再来)		病棟業務
13:00-15:00	外来(新患) 病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務 施設往診（月 1回）		
15:00-16:00	症例検討会					
16:00-17:30	個別症例会議	個別症例会議	個別症例会議	個別症例会議		

個別症例会議は、受持ち患者について、随時、退院支援会議、病棟 CC、デイケア受入れ会議が開かれる。入院患者は、急性期、慢性期合わせて 20～30 名を担当する。

別紙 2：週間計画（連携）

⑫ 宇佐病院

	月	火	水	木	金	土
午前	外来	外来	病棟	デイケア	病棟	休み
午後	病棟	外来	デイケア	病棟	外来	休み

※第一月曜日 午後 管理者協議会（医療安全委員会/感染対策防止委員会等）

※第二・第四火曜日 午後 症例カンファレンス

※第三火曜日 午前 全体朝礼

※第三木曜日 午後 地域の連携施設へ往診

※第四木曜日 午後 医局会議/カンファレンス

⑬大貞病院

曜日等	午前/午後	時間	事項
月曜日	午前	08:00 ~ 00:00	朝礼（ビデオ学習）
		09:00 ~ 09:30	申し送り
09:30 ~ 12:00		精神科デイケア	
	午後	14:00 ~ 15:30	入院診療
		15:30 ~ 17:00	回診・症例カンファレンス
火曜日	午前	09:00 ~ 09:30	申し送り
		09:30 ~ 12:00	入院診療
	午後	14:00 ~ 15:30	入院診療
		15:30 ~ 17:00	回診・症例カンファレンス
水曜日			
木曜日	午前	09:00 ~ 09:30	申し送り
		09:30 ~ 12:00	外来診療
	午後	12:30 ~ 13:30	医局会
		14:00 ~ 15:30	入院診療
		15:30 ~ 17:00	回診・症例カンファレンス
金曜日	午前	09:00 ~ 09:30	申し送り
		09:30 ~ 12:00	入院診療
	午後	14:00 ~ 15:30	入院診療
		15:30 ~ 17:00	回診・症例カンファレンス
土曜日	午前	09:00 ~ 09:30	申し送り
		09:30 ~ 12:00	入院診療
	午後	14:00 ~ 15:30	入院診療
		15:30 ~ 17:00	回診・症例カンファレンス
			(第4土曜日 14:30~16:00 院内学習会)

別紙 2 : 週間計画 (連携)

⑭ 産業医科大学病院

	月	火	水	木	金
8:30-12:00	電気痙攣療法 病棟業務	リエゾン 病棟業務	外来予診 病棟業務	リエゾン 病棟業務	外来予診 病棟業務
13:00-17:00	病棟カンファ レンス 教授回診 教室研究会	病棟業務	病棟業務 チームカン ファレンス	病棟業務	病棟業務
	精神医学セミ ナー (不定 期)				

別紙 3 : 年間計画 (基幹)

年間スケジュール

① 大分大学医学部附属病院

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年精神医学会参加 (任意)
7月	日本うつ病学会参加 (任意)
8月	
9月	日本生物学的精神医学会参加 (任意)
10月	外部講師集中講義 (2週間) 参加 九州精神神経学会参加 (任意)
11月	日本臨床精神神経薬理学会参加 (任意) 総合病院精神医学会参加 (任意)
12月	大分大学精神科同門会参加
1月	
2月	
3月	研修プログラム評価報告書の作成

別紙 3 : 年間計画 (連携)

② 大分県立病院

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	
8月	
9月	
10月	
11月	地方精神神経学会参加・演題発表
12月	県精神科同門会参加
1月	
2月	
3月	



別紙 3 : 年間計画 (連携)

③ 別府医療センター

4 月	オリエンテーション SR1 研修開始 SR2・3 前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告提出
5 月	
6 月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年医学会参加(任意)
7 月	日本うつ病学会参加(任意)
8 月	
9 月	日本生物学的精神医学会参加(任意) 緩和ケア研修会参加(任意)
10 月	SR1・2・3研修中間報告書提出 日本児童青年医学会参加(任意) 日本認知・行動療法学会参加(任意)
11 月	
12 月	県精神科同門会参加
1 月	
2 月	
3 月	SR1・2・3研修報告書 研修プログラム評価報告書の作成 日本統合失調症学会参加(任意)

別紙 3 : 年間計画 (連携)

④ 大分県こころとからだの相談支援センター

年間計画	
4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加 大分県CRT(こころの緊急支援チーム)隊員養成研修参加※
7月	
8月	全国こころのケアチーム連絡協議会参加※
9月	自殺対策専門研修参加※
10月	
11月	九州精神神経学会
12月	災害時等こころのケア研修参加※
1月	DPAT養成研修
2月	自殺対策専門研修参加※
3月	大分県公衆衛生学会参加

※当センター主催

別紙 3 : 年間計画 (連携)

⑤ 衛藤病院

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	
8月	
9月	
10月	
11月	九州精神神経学会参加
12月	大分県精神科同門会参加
1月	
2月	
3月	

別紙 3：年間計画（連携）

⑥ 大分丘の上病院

4月	新人研修会
5月	防火訓練
6月	日本精神神経学会 医療安全委員会院内勉強会
7月	感染委員会院内勉強会
8月	
9月	救急勉強会
10月	病院祭
11月	九州精神医療学会 九州集団療法研究会 大分県病院学会
12月	大分大学精神科同門会 医療安全委員会院内勉強会 防火訓練
1月	大分県精神科医会
2月	感染委員会院内勉強会
3月	

※毎月・・大分医療センターリエゾン往診

別紙 3 : 年間計画 (連携)

⑦ 佐藤病院

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	
8月	大分認知行動療法研究会参加 (任意)
9月	
10月	大分認知行動療法研究会参加 (任意)
11月	日本臨床精神神経薬理学会 日本森田療法学会
12月	九州精神神経学会 日本認知症学会 大分大学精神科同門会参加
1月	
2月	大分認知行動療法研究会参加 (任意)
3月	研修プログラム評価報告書の作成

別紙 3 : 年間計画 (連携)

⑧ 鶴見台病院

4月	オリエンテーション
	大分県精神科医会研修会(任意)
5月	日本トラウマティック・ストレス学会(任意)
	大分県精神科医会研修会(任意)
6月	日本精神神経学会(任意)
	日本老年精神医学会(任意)
	大分県精神科医会研修会(任意)
7月	鶴見台病院研修会
	大分県精神科医会研修会(任意)
8月	久留米大学医学部 精神科夏季セミナー(任意)
	大分県精神科医会研修会(任意)
9月	大分県精神科医会研修会(任意)
10月	別府市医師会 看護学校 精神科講義(任意)
	大分県精神科医会研修会(任意)
11月	別府市医師会 看護学校 精神科講義(任意)
	大分県精神科医会研修会(任意)
12月	鶴見台病院研修会
	大分大学医学部附属病院 精神科同門会(任意)
	大分県精神科医会研修会(任意)
1月	大分県精神科医会研修会(任意)
2月	大分県精神科医会研修会(任意)
3月	研修プログラム評価報告書の作成
	大分県精神科医会研修会(任意)

別紙 3 : 年間計画 (連携)

⑨ 帆秋病院

4月	オリエンテーション 医療安全研修会 (MRI 安全講習)
5月	日本精神神経学会制作「精神科医療の基本」DVD 研修会
6月	日本精神神経学会学術総会参加 (任意) 日本老年精神医学会 (任意) 久里浜医療センターアルコール依存症臨床医等研修参加 (任意)
7月	BLS 講習会
8月	ICLS 講習会 (任意)
9月	県集団会参加(任意)
10月	県集団会参加(任意) アルコール・薬物依存関連学会参加(任意)
11月	九州精神神経学会参加 (任意) 久里浜医療センターアルコール依存症臨床医等研修参加 (任意)
12月	県同門会参加(任意)
1月	
2月	
3月	総括的評価 研修プログラム評価報告書の作成

別紙 3 : 年間計画 (連携)

⑩ 向井病院

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会 日本老年精神医学会
7月	
8月	
9月	
10月	面談評価
11月	
12月	
1月	
2月	認知症医療連絡協議会
3月	総括的評価
	研修プログラム評価報告書作成



別紙 3 : 年間計画 (連携)

⑪ 山本病院

4月	入職オリエンテーション (2週間各部署研修) 医療安全研修会 (院内) 参加 院内勉強会 (毎月開催)
5月	精神科医療のレクチャー (疾病、法規、社会資源、院内システム)
6月	日本精神神経学会学術総会参加 医療安全研修会 (院内) 参加
7月	
8月	
9月	
10月	九州精神神経学会参加・演題発表
11月	医療安全研修会 (院内) 参加
12月	大分大学医学部精神神経医学講座 同門会参加
1月	
2月	
3月	研修プログラム評価報告書作成

別紙 3 : 年間計画 (連携)

⑫ 宇佐病院

4月	オリエンテーション 大分県精神科医研修会 新人研修会 (新人オリエンテーション)
5月	大分県精神科医研修会
6月	日本老年精神科医学会 日本精神神経学会学術総会 防火訓練
7月	日本うつ病学会
8月	大分県認知行動療研究会 ICLS 講習会
9月	大分県精神科医会研修会
10月	大分県精神科医会研修会
11月	九州精神神経学会
12月	大分県精神科同門会 防火訓練
1月	大分県精神科医会研修会
2月	大分県認知行動療法研究会
3月	研修プログラム評価報告書の作成

※別途毎月 1 回程度院内研修会・勉強会有

別紙 3 : 年間計画 (連携)

⑬大貞病院

4月	オリエンテーション 大分県精神科医会
5月	
6月	(日本精神神経学会参加)
7月	大分県精神科医会
8月	大分県精神科医会
9月	大分県精神科医会
10月	大分県精神科医会
11月	九州精神神経学会参加 大分県精神科医会
12月	大分県精神科同門会 参加(できれば演題発表) 大分県精神科医会
1月	大分県精神科医会
2月	
3月	院内勉強会発表 大分県精神科医会

別紙 3 : 年間計画 (連携)

⑭産業医科大学病院

4月	オリエンテーション SR1 研修開始 SR2・3 前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告提出 春季特別研修プログラム (産業医科大学主催) 参加
5月	北九州精神科集談会参加、福岡精神科集談会参加 教室研究会参加
6月	日本精神神経学会参加 教室研究会参加・発表 大学院講義参加
7月	産業医実務研修センター合同症例検討会参加 北九州精神科集談会参加、教室研究会参加
8月	緩和ケア研修会参加 教室研究会参加、大学院講義参加
9月	北九州精神科集談会参加、福岡精神科集談会参加 教室研究会参加
10月	SR1・2・3 研修中間報告書提出 九州精神神経学会参加 教室研究会参加・発表 大学院講義参加
11月	産業医実務研修センター合同症例検討会参加 北九州精神科集談会参加、教室研究会参加
12月	研修プログラム管理委員会開催 秋季特別研修プログラム (産業医科大学主催) 参加 教室研究会参加、福岡精神科集談会参加
1月	北九州精神科集談会参加 教室研究会参加、大学院講義参加
2月	産業医実務研修センター合同症例検討会参加 教室研究会参加
3月	SR 1・2・3 研究報告書の作成 研修プログラム評価報告書の作成 北九州精神科集談会参加・演題発表 教室研究会参加